

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

早期水稲

1. 生育・水管理

晴れの日は浅水（水深約1cm）で管理し、水温を上昇させ生育促進に努めましょう。

低温時や強風時は深水で管理し、稲を傷つけないようにしましょう。

除草剤散布後、水田水が無くなるまで給水しない止水管理を徹底しましょう。

2. つけ苗処分によるいもち病の防止

つけ苗はそのままにしておくといもち病の発生源になります。補植が済んだら、早めに処分し、いもち病発生を予防しましょう。

3. ジャンボタニシ対策

毎年被害が多い水田では、「スクミン」「ジャンボたにくん」等を使い、被害を減らすよう努めましょう。飼料イネには「スクミンペイト3」を使いましょう。水口・水尻に網（5ミリ目）を張り、水路からの侵入を防ぐのも対策の一つです。

ハウス胡瓜

1. 温度管理について

日照時間が長くなり日差しも強くなってくるので、日中はハウス内の温度を下げ、消耗（蒸散）を減らす管理へ移行させます。

2. 灌水・施肥について

気温が上昇し蒸散量が増えるので灌水は十分に行ってください。少量多灌水が効果的です。また、通路が濡れている場合は通路灌水も効果的です。

地温が上昇し、残肥が効いてくる状態であるため、有機肥料中心の薄めの施肥を行います。根の活性が低下している場合は、発根剤を施用します。葉色が薄い場合は、硫マグや葉面マグを施用します。

3. 病害虫防除について

病害（べと病・うどんこ病）と害虫（スリップス・アブラムシ・コナジラミ）の防除を合わせて行いましょう。

特にスリップスは、黄化えそ病の媒介となるので徹底防除を行ってください。

管内でもスリップスの発生が散見されます。早期防除の徹底をお願いします。

今作については、つる枯れ病の発生も多くなっておりますので、定期的な防除、ハウス内環境（空気循環等）の調整をお願いします。

ニラ

急な降雨や日照によりハウス内湿度・湿度が高くなってくる時期です。こまめな換気を行い、高温・多湿条件下にならないよう注意をよろしくお願いします。

また、病害虫も活発に動いております。卵期間は5〜10日、その後、幼虫期間が約9日といわれております。こまめに防除を行ない密度を上げないようによろしくお願いします。

ミニトマト

今後、気温の上昇から生育スピードが早くなる事が予想されます。追肥の量についても、極端に増やすと果実の生理障害に繋がりますので、今以上こまめな施肥が必要です。管理遅れのないうよう十分注意してください。また、コナジラミの飛散も見られ始めますので農薬散布による防除も徹底してください。

大玉トマト

作の終盤に向けて葉面積をしっかりと確保する事が重要です。厳寒期は果実に光を当てる実だしの管理を行っていましたが日差しも強くなると着色不良などの高温障害が出てくるので今後は果実を葉で隠すような管理が必要になってきます。

水管理は少量多回数灌水を基本に行

い、急激な灌水量の増減は行わないようにしてください。温度や湿度変化も激しい時期なので引き続き病害（特に灰色カビ病、疫病）には注意しましょう。コナジラミについても定期的な防除を心がけましょう。

スイートコーン

【追肥時期】

○1回目追肥

本葉6〜8枚期 NK7号40g

○2回目追肥

雄穂抽出始め時期 NK7号20g

【防除】

アワノメイガ・メイチュウ防除。雄穂、雌穂抽出時期に、葉身葉鞘に良くかかるようデナポン粒剤5（使用時期21日前）。アブラムシについてはウララDF（使用時期3日前）、モスピラン水溶剤（使用時期前日）等。

イチゴ

曇雨天、気温の上昇に伴い灰色カビの発生が懸念されます。天気予報を確認しながら早めの防除を心がけ、ハウス内の温度・湿度の上がりすぎに注意してください。また、樹勢を見ながら摘花や摘葉・枝の整理を行うと共に、葉面散布などを活用して樹勢維持に努めて下さい。春先からスリップス・コナジラミが増えてきます。早めの防除の徹底を行ってください。